

仮免試験に合格してから
私は緊急時のみ戦闘が許可され
ヴィランと戦う機会も少しずつ
増えていきました

「はっ！」

「ぐわあっ」

ドヤッ

数分後



「なんとか倒せましたわ…」
（けど全然練習通りいってない…
私…だめだめですわ…）

はあっ

はあ

（トップヒーローに
なるつもりだったのに
もしかして私落ちこぼれ
なのかも…）

ボロ

「あのクリエイティさん
ですよな？」

「え？」

「やっぱりそうだ
ファンなんです
写真撮っていいですか？」

（わ…私の…
ファン!? こ、これは！）

「もちろんいいですとも！
ポーズはどんなのが
よろしいですか？ 言って
下さればどんなポーズでも
とりますわ！」

「じゃあこんな
ポーズってできますか？」

「こ…
これって」

「最近流行ってる
ポーズなんですよ」

（学校の勉強ばかりで
流行りのポーズは知らない
けどなんだかえっちな気が
しますわ…けどせっかくの
ファンの方をお願い
断る訳には…）

「わかりました…
ではポーズとらさせて
頂きますわ」

「はいっ！」

ぱん
あん

（うっ…やっぱり
恥ずかしいですわ）



ざわ
ざわ

（ひ…人だからが
出来てきましたわ…）

ぱ
しゃ
ぱ
しゃ

（あ…撮られてる
私の大事なところ
いろんな人に
撮られてますわ）



「おい
ファンならどんな
ポーズでもとってくれる
らしいぞ」
ヒリ

「まじかよ
じゃあ…」
ヒリ

「僕達もクリエイティブの
ファンなんです！
よかったら全裸で
ポーズとてもらえますか？」

（僕達って…ざっと
40人はいますわ!!
私のファンってこんなに
いたのですか!
けど全裸って…）

（いえ！これだけの数の
ファンが集まって
くれたんですもの
サービスは大事ですわ！）

「いいですとも！」

「じゃあ全裸でさっきの
ポーズして欲しいです!」

「ううっ…
恥ずかしいけど
裸を晒したいから
もっとうとこまん
やっつてやりますわ♥」

「ほら♡これが私の
おまんこですわ♡
よく見てくださいまし」

ぐり

ぽっ♡

（あれ？
恥ずかしい
なのにな
おまんこ
が疼け
きました
♡）

「コスチュームの時も
十分エロかったけど
生乳ドスケベすぎる
…」

「乳首こりっこり
におっ勃てて
やがる…」

「真面目なヒーロー
だと思ってたのに
こんな変態だった
なんて
ううっ…」

「うわ
でっか」

「あんな乳
ただの痴女
じゃねーか」

「うわあ
なんだあのマンコ
エロすぎるじゃん！
誘ってるじゃん」

「大陰唇むっちり
しすぎるだろ…」

「クリエティなだけに
クリも大きくてエッチ
な形してるわ」

「数の子天井だ
挿れたらざらざら
した突起が
吸い付いてくる
らしいぞ」

「もう俺
我慢できねえ！」



「えっ!？」

「おっ…おおッ♡」

「んおっ♡
入ってる！殿方の
おちんぽが…私の
肉壺をかき分けて
入ってきてる！」
(だめっ流石にこれは
止めないと…)

グ
グ
グ

「ち…ちぎつと流石に
これはッ」

「んおおおおおお
おおおおお♡♡」

パン
パン
パン

パン
パン



（私交尾してる…見ず知らずの
人と…ゴム無し本気交尾…）

ゴ
ム
ナ
シ

ポ
ン
ゴ
ン

（学校にばれたら
退学じゃ済まない！
ファンがいてくれた
っていう嬉しさから
ついサービス
しちゃったけど
これはマズいですわ）

「あ…あのうごめんなさい
私…んおっ♡…やっぱり
こういうことは…あ〜♡」

「クッッ…このまんこ
気持ち良すぎる！
ひだがネットリ絡み
ついてくるッ！」

「こんなの精液
搾り取るだけに
出来たオナホール
だろッ！
まじやべえ!!」

「オナっ…違います！
んおっ♡やめてください♡
その…オ…オナホールなら…
私がいくらでも
作って差し上げますのでっ」

「うるせえっ！こんなドスケベまんこ
味わわせておいて他で満足できる
訳ないだら！オナホは黙って
俺のちんぽ気持ちよく
させることだけ考えろ！」

「!!」

「うおっなんだ！
急にすげえまんこ
締め付けてきやがった
自分がオナホだって
自覚したのか？」

（そんなわけない！…
はずなのに♡酷いこと
言われてるはずなのに♡
私のおまんこで喜んで
もらえて嬉しいと
思ってしまった自分が
いますわ♡）

「バースン
バースン
バースン」

「あゝやばい出るっ！
金玉とぐとぐ精子
作ってる…濃いの出すぞ
クリエティ！」

「ええっ！ちちょうと！！
それだけは本当に
ダメですわ！う♡
ごめんなさい！
やめてください！」

（嘘っおちんちん
ビクビクなってる！
このままじゃ…
赤ちゃんできちゃう！！）

「いやっ！
やめてください！
やめてください！！
お願いします！！」

「でるっ
出る！」

ガッポ

「お願いします
やめっ！！ーーー」

ガッポ

「ふんふん」

「いやあああああああ
ああああー！！」

ふんふん
ふんふん
ふんふん

ふんふん

「あー気持ちいい〜♡肉ひだに
ちんぽ押し付けながらの射精
たまんねえ♡ちんぽあったかくて
射精がとまらねえ…」

(ひいい…おちんちん…
びくっびくっでずっと
赤ちゃん汁出してる…
おまんこの中にあついの
が流れてきて変な感覚…)

ぐいっ、
ぐいっ、

どく…
どく、

どく、
どく、

「あー気持ち良かった…
ありがとうクリエディ
これから応援してるよ」

「ど…どういたしまして？」

（ようやく終わりましたわ
この方も喜んでるようですし
ポジティブに…考えるように
しましょう…）

「はあ、やっと二人目が
終わったよ」

「ひ…一人目?!
まさかこの人だから全部と
するんですの？」

「そっじゃないの? 皆ファン
なのになまさかそいっただけ特別
扱いしないよね?」

「そ…
それは…」

数時間後



「オラッ！孕め！」

ド
ビ
ュ
ル
ル

乳しまに

私はい

ゴ
ポ
ッ

ゴ
ポ

チュ

カ
ダ
ン
ク

あ
ち
ん
ほ

大
女
子

正
正
正
正
正
正

ゴ
ッ

「んほおおお♡イグッイグウウ♡
お腹の中ザーメンでパンパンに
させながらイクうう！♡♡♡♡」

「これで全員終わっちゃったよ
ありがと！じゃあな！」

「ええうもう終わりですの？
まだまだおまんこの
疼きが止まりませんわ♡」

ど

ぽ

「お姉さん
ここで
何やってるの？」

「ん？
子供…♡♡♡」

あ
ち
ん
ほ
大
女
子
正
正
正
正
正
正
正
正

乳
し
ま
ん
こ

私
は
ハ
ン
タ
イ
ど
ー

ハ
ン
タ
イ
ク

「雄英高校二年
八百萬♡ヒーローネーム
クリエティですわ♡♡♡
君気持ちいいことに
興味はありまして？」

「えっ…」

乳まへに

私はずいぶん

あ、ちんぽ

肉便器

タタムノク